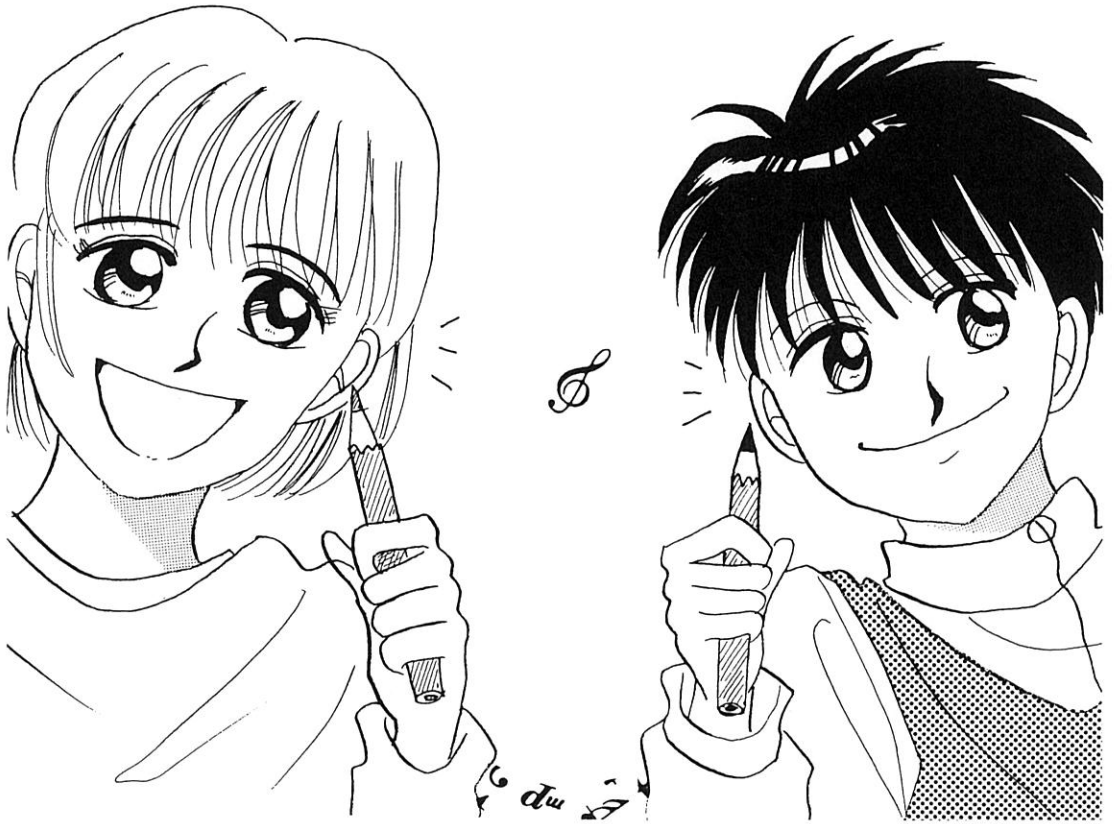
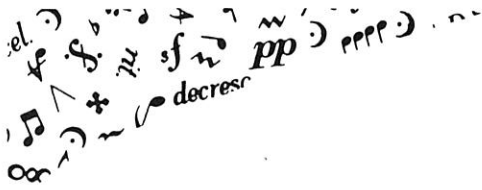


サウンド スケッチ

☆ 森の中で聞こえる音を絵や模様で表して、想像力と表現力を養う。



サウンド スケッチ

1. 活動の概要：

森の中などで耳をよく澄ましてみましょう。自然の中には、さまざまな音があふれています。聞こえてくる音を、いろいろなかたちに表す活動です。

小鳥の声であれば、鳥のさえずりを言葉で表現する「聞きなし」という方法がありますが、ここでは、自然の音を言葉ではなく視覚的にとらえてみます。鳥の鳴き声を研究する学者は、ソナー記録機を使って音声分析をするそうですが、このゲームでは、私たち自身がソナー機のようになって音を集め記録していきます。

音をイメージする絵として表現してもよいし、音のようすをいろいろな色を使ってかき表してもよいでしょう。

2. 活動の目的：

- 聴覚を鋭敏にして音を聞きわけ、自然観察力、集中力、感性を高める。
- 耳で聞いた音を、イメージ的に絵や模様スケッチなどで表現することで、想像力や表現力を養う。

3. 準備するもの：

- (1) 記録する紙、鉛筆、色鉛筆、クレヨンなど（人数分）
※ 絵本のようなまとめ方をさせる場合は、B5判程度のスケッチブックを使用。
- (2) 目かくし用のハチマキカタオルを用意（人数分）

4. 人数／場所／時間：

- (1) 人数：少人数から50人程度まで。（指導者の人数で加減する）
- (2) 場所：自然の豊かな森、登山路、キャンプ場周辺など。（人工的な音があまり聞こえない場所が望ましい）
- (3) 時間：30～60分程度

5. 活動の手順：

- (1) 各自に、紙（スケッチブック）、鉛筆、色鉛筆、クレヨンを配布します。
- (2) 次のような説明をして、子どもたちの意識を高めます。
 - 「目をつむって耳を澄ませてみましょう。いろいろな音が聞こえてきますね。それを紙に記録してみましょう。みなさんの手には指紋があるように、音にも声紋せいもんがあります。声紋はどのようなかたちに表せるか考えてみましょう。また、自然の中にはいろいろな色がありますが、自然の音には色がついているかも知れません。聞こえてきた音の色を想像して色で表してみましょう。」
 - 「言葉ではなく、絵のように、また振動図のように表現してみましょう。」
 - 「自然の音にはどんなものがあるのでしょうか。大きな音、小さな音など、いろいろ聞き分けて発見しましょう。」



6. 指導上の留意点：

- (1) 最初はなかなかイメージが湧かないかもしれません。そこで、小鳥の鳴き声をソナー記録機が「振動音」としてとらえた次の図のような例を示して、「機械ではなく、あなた自身の感覚で音をスケッチしてみましょう！」といった助言を与えるとわかりやすいでしょう。



- (2) 特徴をうまくとらえて表現するため、想像力を働かせるように指示します。
 (3) 活動中はできるだけ1人で行動させ、他の人と話したり騒いだりしないようにし、目かくし布を利用するなど自然の音を集中して聞ける場の設定に努めます。

7. 安全上の留意点：

- (1) 事前に有害な動植物の有無を確認し、安全な場所で行いましょう。
 (2) 森の中に入る際には必要に応じて服装に対する注意をします。ヤブなどのある場所では、長そで・長ズボンの着用、長靴が安全です。
 (3) 行動範囲を徹底させます。迷い込みそうな場所にはスタッフを配置します。

8. まとめ：

活動の最後に、それぞれがスケッチした自然の音を発表させましょう。同じ音でも人によって表現のしかたが異なります。発表を通して人それぞれの個性的な表現の違いを味わうことができるでしょう。

- ◆ 該当学年
 小学校中学年から

自然の中で聞こえる音には、個性があります。ウグイスの鳴き声にも、微妙な個体差による癖があります。森の落ち葉を踏むときにも、木の種類によってずいぶん音が違ってきます。ホウノキは大きく堅くてガサガサと大きな音をたてます。枝に付いたまま空に透けたように枯れていくシラキの落ち葉などは、ほとんどその踏み音が聞こえません。乾いた感じの音が秋の林内に結構響いてしまうクヌギやクリの落ち葉、優しい浮遊感を持った音を聴かせてくれるイチョウやケヤキの落ち葉たち…。このように、落ち葉ひとつをとっても、さまざまな音があります。ススキ野原を吹く風の音や林内を抜ける風の音、風の強さによる変化、優しい風音、寂しい風音等々、風も実に多様な音がします。そんな自然の音に色を付け（だから音色＝ねいろ?!）、スケッチして、自分の音のイメージをかたちに残しましょう。

(文責) 土井浩信

IORE SHEET (野外教育活動事例集)

1996年4月 第1版, 2008年1月 第2版 発行

イラスト：広丘和光

編者・発行

財団法人 日本教育科学研究所

土井浩信 (淑徳大学) 平野吉直 (信州大学)

野口和行 (慶應義塾大学)

鶴川高司 (有限会社 掌 代表)

〒162-0811 東京都新宿区水道町4-6

TEL. 03-3268-7587

FAX. 03-3266-8854